OKUMURA Ayao　伝承料理研究家　奥村 彪生

KAWAUCHI Atsuro　語りテレゲーター　河内 厚郎

OTANI Shoko　作曲家　大谷 祥子

JAPONisme
―― ジャポニスム振興会とは?

日本のさまざまな文化を広める講演会やコンサートなどの活動を全国各地で開催いたします。会員登録により、全ての公演に会員価格で参加することが出来、季刊会報誌「JAPONisme」や会員通信、メールマガジン等をお送りするほか、様々なプレゼントを差し上げております。開催告知のみで、入会費・年会費等は一切不要です。私たちにとって大切な知恵と友情と情報、そして感動体験を、ジャポニスム振興会の活動を通じてお届けいたします。

チケットのお申し込み

インターネット予約フォーム
http://japonisme.or.jp
Fax 075-525-2095
Mail info@japonisme.or.jp

お申し込みの際は、お名前(よみがな)・ご住所・電話・メールアドレス・会員、会員番号(会員の方のみ)をご記入ください。
折り返し、当日のご連絡をいたしますので、電話のお申し込み、お間違いなく Tel.0800-222-128(418時~17時)にご連絡ください。
※10月27日までにお申込みください。ご予約は先着順となりていただきます。
※お電話でお申込みの際はご連絡先をお伝えください。
※ご購入後のキャンセル・変更は致しかねます。
※公演中の撮影・録音は固くお断りいたします。

Access
リーガロイヤルホテル大阪
〒530-0005　大阪市北区中之島 5-3-68
Tel.06-6448-1121

ごあいさつ

各地で紅葉が色づき始め、日ごとに秋の深まりを感じる頃となりました。一年のうちで最も美しいこの季節に、多方面でご活躍の河内様、伝承料理研究家奥村様をお迎えして「歴史、食、伝統音楽」を堪能する会を開催出来ますことを心から嬉しく思っています。

本日は本願寺にとってたいへんゆかりの深いテーマで、大阪から転出できますことを、有縁の方々に一同深く感謝申し上げます。

歴史、食文化、芸能、経済と、いろいろな顔を持つ大阪。この「おおさか」の名付け親である本願寺第8世蓮如上人は来年御生誕600周年をお迎えします。大阪石山本願寺歴代上人の智恵を育んだ食事を、往事の資料を元に再現し、その秘訣を奥村様にご披露いただきます。河内様からはウイットに富んだ大阪歴史話を、大谷祥子さんは大阪にちなんだ曲を演奏いたします。

当会は日本の元気の発信地、大阪の更なる発展の為、また世界に誇る日本文化の魅力を一層磨き上げる取り組みに全力を尽くして参ります。どうか皆様の御賛同をお願い申し上げます。

結びに、本日お集まりのすべての皆様にとって実りの多いご縁となりますよう念じ申し上げます。

ジャポニスム振興会　顧問会長　大谷祥子

伝承料理研究家　奥村 彪生（おくむら あやお）

和歌山県生まれ、1937年生まれ。
相愛女子短期大学講師、神戸山手女子短期大学生活学科教授、神戸山手大学教授、奈良女子大学非常勤講師を経て、大阪市立大学生活科学部大学院博士前期課程社会福祉課程、関西大学大学院に入り、伝承料理博士号を取得した。
NHK「きょうの料理」にレギュラー出演。

文化プロデューサー　河内 厚郎（かわうち あつろう）

1952年奈良市生まれ。一橋大学法学部卒。読売新聞社として政治家に入る。1987年から「読売文学」編集長を二期つとめる。1991年、大阪府知事選挙参謀を務める。文化プロデューサーとして大阪府から「咲くやこの花賞」を受ける。読売新聞大阪本社から「読売賞」を、堂島市から市制50周年記念表彰の「文化功労賞」を、兵庫県から「文化功労賞」を受ける。NHK番組審議委員、NHKラジオセンター21世紀プロジェクト委員、毎日新聞記者編集員などを歴任。現在、時事評論の標榜を担当。神戸国際大学教授、法政大学教大学院兼任教授、大阪樟蔭女子大学客員教授、観音文化財団理事。

箏曲家　大谷祥子（おおたに しょうこ）

東京藝術大学音楽部邦楽科卒業。賞候補全国コンクール1位。平成13年度文化庁インターンシップ研修生。平成25年度文化庁芸術祭新人賞受賞。古典邦楽のみならず、様々なジャンルのアーティストと共演、全国でコンサート活動を展開している。堺市民おもろ市にある百舌鳥古墳群世界遺産上人記念館顧問、京都市「DO YOU KYOTO ?」大使、ジャポニスム振興会顧問会員などを歴任。

■石山本願寺饗弁当

御献立

造り　紅葉鯛昆布じめ　柚酢（煎酒　柚子　山葵　塩）　若荷　ばくだい　菊
焼物　笹子田楽　花蓮根骨焼し
煮物　鴨と生麩　椎茸旬菜煮風おろし山葵添え
酢物　海月と柿の胡桃酢和え　針生姜
御飯　栗御飯　香物（瓜糠漬）
吸物　すまし仕立て（鰤蕗　揚布）　松茸　豆腐
果物　柿ようかん

■石山本願寺夢の舞

時は明応7年、一人の僧侶が供を連れて淀川を船で下り、聖徳太子ゆかりの地、上町台に構法堂を構えます。
その僧侶の名は「蓮如」。蓮如は夢のお告げにて、上町台を掘ってみるとそこから水が噴き出し、石がざくざくあらわれ瞬く間に石山御坊が建立されました。それが石山本願寺（現大阪城地）でございます。
今日は蓮如の見た夢、おさか、大阪の夢をご覧いただきましょう。
この像は幻想的な夢の導入で始まり、聖徳太子のお導きにより、生玉の庄内の在所に御坊を建てるメロディアスな主調が続きます。
拍子が8分の6拍子、8分の5拍子という変拍子から4分の3、4拍子とゆっくりと変化します。
人々が参集して、御坊後の町である寺内町が誕生し、そこで生まれる悦び、悲しみ、誕生と死・・・
ここはまた変動的なリズム、悠音を効かした激しい拍子に変化。それも突然にふむと・・・
冒頭と同じフレーズが現れ、蓮如はこれが夢であったと気付くのです。

十天開一作曲　2014年9月14日初演

■蓮如音頭

蓮如上人が詠まれた和歌に、大谷祥子が作曲。みんなで楽しく踊りながら、蓮如上人のご功績を顕彰する音頭に仕上げました。

・みな人に　弥陀を頼めと　夕涼の　川音たてて　みゆる大さか
・このたびは　不思議に会ながらへて　また来てみつる　夢なるらん
・住吉の　誓いかはらぬ　海なれば　ひく志ほみずの　ほどのと ほさよ
・老いらくの　命のかずまず　生玉の　光にあへる　春の大さか
他

■2014.11.「大阪石山本願寺の馳走を箏の響きにのせて味わう会」出演